

## 九州地整「森下博之新局長の就任記者会見」

熊本地震からの復旧を最優先、九州のインフラ整備と建設業の働き方・生産性向上



九州地方整備局の森下博之局長は28日、就任に伴う記者会見を福岡第二合同庁舎で開催した。会見で森下局長は、令和8年熊本地震への対応やインフラの整備・管理、建設業の働き方改革・生産性向上の3つの観点から、九州地方整備局の果たすべき役割と今後の取り組みの方針を説明した。熊本地震からの早期復旧・復興を最優先課題に掲げるとともに、防災・減災や国土強靱化、インフラの整備・管理、建設業の担い

手確保やDXの推進などについて言及。地域の安全・安心を支える基盤の強化と、将来を見据えた建設業の環境改善に取り組んでいくと語った。

### 会見要旨は次のとおり

#### 「熊本地震への対応」

令和8年熊本地震への対応では、私自身も就任前から九州に入り、前垣下局長とともに対応に当たりました。地震発生後は、災害対策本部の設置や自治体とのホットラインの構築、リエゾンの派遣、防災ヘリによる調査などを行い、迅速な情報収集と被災状況の把握に努めました。また、全国の地方整備局等から延べ約4,000人を超えるTEC-FORCEを派遣し、公共土木施設の被災状況の把握や給水活動を支援しました。地元の建設業者の皆様とともに、公共施設の応急復旧や緊急輸送ルートの確保にも取り組みました。

河川関係では、国管理河川の点検で堤防などの被害を確認し、災害協定を締結している建設業者の皆様のご協力のもと、応急復旧工事を実施しました。上下水道関係では、断水地域における給水活動を支援するとともに、水道本管の早期復旧に向けて対応しております。

道路関係では、通行止め箇所の緊急・応急復旧を進め、支援物資の輸送や住民生活を支える交通機能の確保に努めました。港湾関係では、被災した岸壁の応急復旧を進め、支援物資や海上支援の受入れ拠点としての機能確保、地域経済を支える物流拠点としての早期復旧に取り組んでおります。地震発生から1カ月が経過し、今後は応急復旧から本格復

旧へと移行してまいります。被災地域や関係機関との連携を一層強化し、まちづくりや住まいづくりも含め、スピード感をもって被災地の復旧・復興に取り組んでまいります。被災地の1日も早い復旧・復興が、九州地方整備局に課された最優先の課題であると認識しております。

### 「インフラ整備・管理への取り組み」

九州地方整備局といたしましては、「インフラで九州を守り、未来を創る」というミッションを掲げて取り組んでおります。河川関係では、国土強靱化の取り組みの効果が着実に発現しており、引き続き、防災・減災、国土強靱化に基づく事前防災対策を推進してまいります。また、球磨川大規模災害関連事業や、気候変動への対応として、治水計画の見直し、流域治水、治水施設の老朽化対策などにも取り組んでまいります。

ダム関係では、各ダム事業や地域振興を着実に推進してまいります。道路関係では、道路ネットワークの整備・管理を進め、安全安心な交通を確保するとともに、平常時・災害時を問わず人流・物流を支える広域道路ネットワークの形成・強化を推進してまいります。港湾・空港関係では、国内外を結び、人流・物流を支える基盤として、成長投資と危機管理投資の両面から機能強化を進め、物流ネットワークの充実、港湾の生産性向上、国際競争力の強化、防災・減災、国土強靱化に取り組んでまいります。

官庁施設、まちづくり・住まいづくりにつきましても、災害に強い地域づくり、地域の活性化、安心して暮らせる住環境の確保に取り組んでまいります。また、新たな九州圏広域地方計画に基づき、「九州はひとつ」を合言葉に、誇れる九州を目指して取り組んでまいります。

### 「建設業の処遇改善、働き方改革、生産性向上」

今回の熊本地震対応では、熊本県建設業界をはじめ地域の建設業の皆様、地域の守り手として総力を挙げてご対応頂きました。平時のインフラ整備・管理や災害時の応急対応に重要な役割を果たす一方、高齢化や若年入職者の不足など、担い手の確保が喫緊の課題となっております。九州地方整備局では、時間外労働の上限規制などに的確に対応するため、建設業の働き方改革、処遇改善を推進しております。週休2日の取り組みや猛暑時における働き方への対応など、多様な働き方の実現を進めております。

また、処遇改善につきましては、適正な労務費が確保され、技能者に賃金として行き渡るよう、新たな制度の周知、適切な価格転嫁、建設Gメン調査による指導監督などに取り組んでまいります。さらに、生産性向上に向かしましては、国土交通省のDXアクションプラン、i-Construction 2.0などに基づき、デジタル技術や自動化技術、フィジカルAIなどの活用を推進し、建設現場やインフラ維持管理の生産性・安全性の向上、持続可能な建設業の実現に取り組んでまいります。建設業の現状や現場の声をしっかりと把握し、さらなる環境改善に努めてまいりたいと考えております。

## 局長の略歴

森下 博之（もりした ひろゆき）

昭和41年生まれ、58歳。

奈良県出身、大阪府立大学大学院工学研究科博士前期課程機械工学専攻。

|       |    |                          |
|-------|----|--------------------------|
| 平成6年  | 4月 | 建設省採用                    |
| 平成21年 | 4月 | 国土交通省中国地方整備局松江国道事務所長     |
| 平成30年 | 4月 | 同 総合政策局公共事業企画調整課施工安全企画室長 |
| 令和2年  | 4月 | 同 道路局国道・技術課技術企画室長        |
| 令和3年  | 4月 | 同 九州地方整備局企画部長            |
| 令和5年  | 4月 | 同 大臣官房参事官（イノベーション）       |
| 令和7年  | 6月 | 同 総合政策局公共事業企画調整課長        |
| 令和8年  | 8月 | 同 九州地方整備局長               |